

加納達則 メッセージ

私たち家族は、おかげさまで皆元気です。
私の居住地、エミリア・ロマーニャ州はレッドゾーンです。
現在イタリア全土ですが、感染被害の最大地域と隣接しています。

こちらはロックダウン1ヶ月となり、長期戦の様相を呈してきました。
ちょうど30日間家から外に出ていません。
1週間に一度の買い出しは、食品買い物の証明書携帯で息子の仕事です。
消毒液とマスク、パンのイースト菌以外は不足しているものは有りません。
食事は普通の量の半分、ラジオ体操1、2を2回反復と太極拳の基礎呼吸法が日課となっています。

私の方も、当初から予定しておりました(コロナレジスタンスグループ展 * 仮題)が当局の意向で中止になりました。
いち早く抵抗を表明しましたが、現実にご覧の通りでした。
グループの全員ほとんどが、アカデミアの教授だった人達で65歳以上という死亡確率ターゲットにはいるのです。
死亡確率は70歳から80歳で80%です。

家の外では中世を舞台に描いた小説を現代に再現されている様です。
全世界で同時進行して居る現実、ハリウッドの地球滅亡映画を目の前で見て居るようです。
今は春の花を愛でる自由もありません。
出来立てのアトリエへ行く自由もありません。
今は牡蠣の殻を閉じた様に沈黙を余儀なくされています。
食べ物が無い訳ではないのですが、日に日に感染の恐怖と精神的な抑圧から来るストレスが効き始めています。
自分自身との戦いです。
これでは貧乏と仲良く暮らして居る作家も参ります。
たかが30日くらいの不自由です。
アトリエに行けないのは苦痛です。
いちにち1人か2人、ひとり暮らしの友達との電話が必須の日課です。

数ヶ月前には大袈裟に報道されていた中国の事件が、現実に目の前にある恐怖となっています。
第2次世界大戦後に起きた、人類最大の脅威と言っても過言ではないと思います。
私的な感想ですが試練です、この時期を乗り越えた時にどの様な社会システムに問題があったのか、どの様にライフスタイルを変えて行かなくてはならないのか？
無視できない時点に差し掛かっていると考えています。
このウィルスは人類の生んだものです、地球は病んでいるのですね。
取り敢えず、生き残れるかが先決ですがそれから後に考えることですね。

こんな事もあったと皆で食事が出来る日が来ることを祈っています。
くれぐれもご注意怠らないように。